ホ加 2
625
1

普天乃下霖露におほくの國〻
文字あり假名ありて倭國のうつゑ
されなして四十七變乃ことやあさ
權操空海四法同して涅槃四句れ
偈乃意を同字れしの長歌といろは
にあへとちりぬるとよみて千歳乃
字法となすもとあつまし神拱
三十六乃字母、法ほし拵く平仄

門 加2
號 62 全
卷 1

四聲をわかち性霊乃奥をあらへ
造化の玄微をしりて同條乃物欲
なり其四十七聲の假名を宮商
角徴羽のひゞき脣舌牙歯喉乃
開合にきこえてわかちぬ四十七
文字をもてくまなく意をのへる
ことは其聲と形る西方は寛柔なる
小海乃剛強なる清濁呂律の
おのちあらはて玄微をわかつ別に
東方西域ともまさに去る案一年此内
小鳥をきては春に鳴虫はなきては
秋に鳴をみなく何の声はあるは次
それに此風氣乃変を語のいろを
一例なり教ていまはいつもろ高語四十
七変をみなて四十七字をいろはの
法は易心をさて傳わるべし

今此一巻ハ我稚子のためにせんと
あるハ人每初心のたよりにわさと其徹を
のそきさす四十七変の字法をあらわ
古来歌人の集をとりみるにかき
乃四紀雜書に毎と先生かしや
すゝふさるにおなしき名つまて
假名字例といふ類ハなそし例を
かんかく假名文字法しるに

まなかくしてかくるものへ主意と
おやかれのさすきも成ぬ人し
迄窻のもとの秋むさし雅よし
露をしるして是の陋巻
谿膽堂のあるし山崎吉里
ちう汲もみた務し

假名凡例

一五音五位

唐漢呉五音相通
假名直拗共通用

直音 アイエヲ横ニ引ハ開 ウ横ニ引ハ合也
拗音在左右 右ハ開 左ハ合

直音（促音）

喉	牙	齶	舌		唇					開合
ア イヤ ウワ	カ キヤ クワ	サ シヤ スワ	タ チヤ ツワ	ナ ニヤ ヌワ	ハ ヒヤ フワ	マ ミヤ ムワ	ヤ 井ヤ ユワ	ラ リヤ ルワ	ワ イヤ ウワ	開
イ イ井 ウイ	キ キ井 クイ	シ シ井 スイ	チ チ井 ツイ	ニ ニ井 ヌイ	ヒ ヒ井 フイ	ミ ミ井 ムイ	井 井井 ユイ	リ リ井 ルイ	イ イ井 ウ井	開
ウ イユ ウウ	ク キユ クウ	ス シユ スウ	ツ チユ ツウ	ヌ ニユ ヌウ	フ ヒユ フウ	ム ミユ ムウ	ユ 井ユ ユウ	ル リユ ルウ	ウ イユ ウウ	合
エ イヱ ウエ	ケ キヱ クエ	セ シヱ スエ	テ チヱ ツエ	子 ニヱ ヌエ	ヘ ヒヱ フエ	メ ミヱ ムエ	ヱ 井ヱ ユエ	レ リヱ ルエ	エ イヱ ウエ	開
ヲ イヨ ウオ	コ キヨ クオ	ソ シヨ スオ	ト チヨ ツオ	ノ ニヨ ヌオ	ホ ヒヨ フオ	モ ミヨ ムオ	ヨ 井ヨ ユオ	ロ リヨ ルオ	オ イヨ ウオ	開

拗音（促音）

一 諧い

変の字れ下まこまろハ皆い也訓の时ひくきこゑ
も亦いまりうつくしいたのしいみしいうれしい

等なり又ゟいてないてといての類口傳

一 中ゐ

教の字訓ハ字こもに用ゆる事多し教ゟえぬり時大ゟこゐなりいをゟぬるに傳ふ又訓の内にゐをかゝる一字傳受する是ハ万字のなり

一 奥ひ

訓の下にとまるハ大ゟこひなりいとゝとまるハすくなし又音ハ内多ハヒフ二通或ハさふゝひさふゝ始あひあいいひいゑ或ハいいひいゑんあひあゑん等之

一 端へ

訓の字ハ是又下に書時用也譬ハかへるいよし へ古うへ詠のことひなり又音の内ニ及ハふに通ふうれへうれよたまへ等也又ゆによかよふ事そのへえへゆかへ口傳あり

一 中ゑ

訓の時ゆに通ひ六帖ゑなりきこゑ たゑさえ おほえ 山彩喉音にておくる者之又つゑ杖 も用之但傳有又教ノ字ノ葉遥要ホハ何モヨウナレ氏ゑうとかくハ喉音ル通ル古例也

一 奥ゑ

訓の時かしら字に用ゆる事多し 恵ゑ若子傳受の上詳之

一端ほ

是ハ訓也中下ことに付て聲ハいきのひころかひかつきかな等之 又数にても○たる字皆かな之庵いほり巌いはほ 那こほり 数かな 極きはみ 此類之遠の字一つことはりしと書ハ傳あり

一中を

てにハのをの字論之ことはりしなをしたをやうえこのをうを此類之作準之

一奥に

淡数ともよ下よかくすなし 是をてあるよ明る中をも亦然也

一わの字

訓のときよ下に書すなし 但ことのふことつまくむ等ハ各別之

一はの字

是ハ中と下とかくす多し 聲ハにハかなといふいはゆるりおもえ数くさうりん未之作推てさとるへし

一ふの字

訓の时下にかくすおほし 端へよさらもここさく数よ川时ハ皆う之 東冬江など 又よこにもひくすまくまうふ时うへわうう ロくほそう かそく からう うらくなつかしうさなく 此類也

又或就丹数よ流まりふる字をふと書す 法ほふ 合かふ 十じふ 立りふ 入にふ 此類之といへとも古例入数のつこひくハ皆う之 訓のふよまうよ故之ふすもう [illegible]もの名よ数の字を用时大のふを

く古例之儀言ハ胡蝶ニてふ万葉集まんえふしふ
押領使あふりやうし太閤たいかふ
又数丸かうひきふ引を屋かうけて訓ニ用も有り
儀言ハ芭蕉（ハセヲ）（ばせを）入（ニフ）（じふ）鸚鵡（アウム）（おふむ）准之
又訓ニうをむニ用る梅うめむめ馬うまむま埋木うもれきむもれき
此類之准之

一むれ字

芝をうる○ニ用る雑色之表ニする○さる字を
りくたくひ椀飯（ワンハン）（わうばん）梓類（カンルイ）（かうるい）うむおむ通れ之准之
みこをうる○字ニ用る頓（トン）（とみ）蟬（セン）（セミ）文（フン）（フミ）此類表訓一之或
ハ訓ニ君（キミ）（きん）上（カミ）（かん）筆（フミテ）（ふんて）呑（ノミテ）（のんて）讀（ヨミテ）（よんて）の類
又にをうる○字ニ用る銭（セン）（ぜに）蘭（ラン）（らに）紫菀（シヲン）（しをに）此類も
亦数訓一之或ハ訓ニ樺桜（カハサクラ）（かにさくら）牽牛子（ケンゴシ）（けにごし）
此類之此ニ片假名を始る時ニめニ○ニする之
句色口傳ニあり

一假名體用 思おもひ躰 おもふハ用之准之
一返音訓 トヨリカヘリテミルヲ云ナリ 儀言ハめをと夫婦准之

凡例終

此書はちかきはやもじをきるみなと
はやりかくれたこともの和みなき假名一つを
のこすことなしこれわかつなり宣をとかゐ
ゐはいろは字に志ゆひ類门をたてく
りむちまちらしむれぬこよの
されてこれみちに事ありも端とるひ
はくさにいとまありんやたく大槩を
志るす字の例をあくるのみなり

假名字例巻一 自以至土

い

吉備公片假名之字母伊之
空海僧以呂波之首字以之

乾坤 いぬゐ 乾

乾ハ是陰陽五行ノ總司万物本也故周易以テ乾開巻ノ初トス且イヌヰトス二陰陽開闔ノヒキ有ユヘニ以テ書ノ初トス

いづものくに 出雲國

素戔烏尊於此國簸川上斬八岐大蛇至其尾釼刃少缺故割裂其尾視之中有一釼初釼ノ上常ニ有雲氣故此國曰出雲ト云云

いづみのくに 和泉國

いはみのくに 石見國

此國有高角山有岩崎山有岩奈仁山皆嶮石之國也故曰一ト
自海見石山之義也

いざよひつき 不知歷月

不知夜月共
十六夜月共

いぬかひぼし　牽牛　倭名類聚ニ　いかづち　雷
いりえ　入江　いさよふなみ　排徊浪
いはや　窟　いし　石
いはほ　巖　岩碞嵒共同字　附いはおとは岩俗　倭名類聚ニ見タリ又いは　磐源順云磐石ハ大石也凡千人ヲ以テ引チビキノ石ト云　又万葉ニ岩戸柏
いをぢ　魚治　越後郡　又作沼　いはとうしん　石近　常の岩はいふ也歌ニよみし川いはとうしんとよめり又石をおもうしんと云祢代は故あるを署見于細石ニ　いゐし　飯石　出雲郡名
いはせの　伊波世野　越中名所　いはしろ　岩代　紀伊名所　同國藤代近

いぶすき　揖宿　薩广郡名　いはたがは　磐田川　紀伊名所
いりひのをか　入日岳　筑前名所　いひほ　揖保　播广郡名
いはくら　石蔵　山城名所　いはし　岩橋　大和名所
いはせ　磐瀬　大和名所ト渡ハ能登之中ニ妙義井共　但しいはしみづ　石清水　山城國男山
いはで　磐手　三ケ所續千ニかくとえいそぞの歌はこよめりハ摂津之新古ニいそで思ふハえうちねとよめりハ陸奥之續古ニいとての山ハさそちくるらんとよめるハ出羽之文字磐禔トカク　いはひしま　祝島　周防名所
いつきのゐん　齋院　賀茂斎王居之箇内親王未嫁者ヲ卜定之若無内親王箇ハ諸王女ヲ卜定之云ミ嵯峨天皇ヨリ始リ後

鳥羽院ヨリ断絶ス伊勢外宮ハ番匠ノ
時ヨリ始リ是モ後鳥羽ヨリ断絶ス

いもあらひ 一口 山城 在名　いかゝぬま 伊香保沼 上野 名所

いへ いゑ上書ハ非ヘ属 家 又宅又屋附 よすいへ 世家　いしずへ 礎 順倭ニ柱礎ノ字又俗ニ石居

いがき 瑞籬 此二字みづかき共みつかき共訓ス又わけれたまりき赤 玉墻又ぬがきトモ井垣皆神前ニアリ委口傳ニ

いほり 庵 古作菴隋唐以来作庵ニ　いほうもん 郁芳門 大内十二門ノ 其一

あり

気形 いへどうじ 主人女 伊勢物語ニ有　いへのつと 魑魅

いもうと 妹 いもと 圧　いせをのあま 伊勢男海士

いかると 斑鳩 順倭ニ鳥ノ一也又古書ニ 又鵤トモ いかるかとも　いなおほせとり 稲負鳥 古今集三

いわし 鰯 又鰛魚ノ二字 ひしこいわしと訓　いろくづ 鱗 うろくづとも

いさをしひと 勲功人 又婦功共書但 是ハ女ノ織縫ワザヲ云 ○俗ニ手柄ト云是也

生植 いちゐのき 櫟木　いちやう 銀杏 異名鴨脚 拘音ニテギンキヤウト云也 山谷カ句ニ有

いちぢく 無花果實　いねかりいれ 稲苅入 シホハ声ノ変也シホシフ五音通也　いはつゝじ 羊躑躅

服器 いひ いひとも 飯 又をものト訓ス 附いぬうへ 饑　いみびいひ 忌火飯 潔齋ノ時用之

いけにへ 犠牲 ハ牛羊豕ノ三牲ノ類但延喜式ニ云釋奠ノ三牲ハ用大鹿小鹿豕ヲ又五牲ハ麋麻麞麕猨兎是也

いゐかひ 柄 伊勢物語ニ見タリ 飯匙共俗ニ杓子ト云　いしのおび 石帯 束帯時用

いえくすり 癒薬 同 瘉　いはたけ 石耳

いつゝのを 五緒 車ニ有常ニ御所車ト書非也 五緒車也

いしやう 衣裳　いへづと 家苞 土産 累シテ土

雑事 いにしへ 往古 俗作徃　産トハ斗モ或都 産或田舎土産　いきとしいけるもの 一切衆生 為家自筆

いりあひ 晩鐘 俗入相　古今集ノ序ニアリ 又四字ヲさしもいきとし訓ス

いつくしき 厳 うるはし共 美又同訓　いつはり 僞 又詐 又 兩舌共

いもゐ 精進 齋 同訓之 居モ　いきほひ 勢

いつきかしつく 寵愛 むつよとあり　いはでえよ 欲レ言不レ得レ言 伊勢物語ニいへばえにいはねばむねに

いざうれ 去來 又誘我

いへども 雖　いはひ 祝 又ことほぐト 訓ス神ヲ

いなむ 辭 辝 ニ通ス 他準之　いはけなし 稚 穉同字之又穉 ニ出又ニモ

いにしへハ祟ノ字又女姓ハいまサトカクノ岩井水ニトリ又 伝拝ノ声ヲ忌ト也

いとをし 最愛 最惜 共　いふ 云 謂曰言三十同 又是ヲてふト

訓ス或りさにぬふてふ笠縫ニ云或ゆめてふもれハ
夢ト云物等ニ
いはゆる 所謂 下ノ字イハレト訓ス 又いひてす 謂不知
いまめかしき 附ーー比 今般時 臨終ヲサス いろふ いろひとも いろて共 綺 彩色ヲ云
いさかひ 闘論 いふかく 言説
いはんや 況 不及言ニ意 いばふ 嘶 又いなゝく トモ訓ス
いつてう 一貼 藥等 附いつちやうーー張弓 ーー挺 墨等 ーー丁 鋤等
いつそう 一艘 舟又屏凡 いつさう一雙 いとふ いとひ 厭
いらへ 應 諾答共同 いきどほり かトモ 憤 源氏玉のつらニいきまき給て有ト

いたづら 徒 いつかう 一合 折ノ
いさふ 訶 又叱人ヲ メルニ いまやう 今様 風俗ノ 謡物ニ
いそぢ 五十歳 いづこ 何 いづれト五音通ス ーけ ーかー地
いざなふ 誘引 唱行 共 いそがはし 閙 又忙
いぬおふもの 犬追物 神功皇后三韓ヲ隨ヘ玉フ時新羅國王若
日本ノ犬也ト書セ玉フ由来ニテ近衛院ノ御宇ヨ
リ其礼傳ト云 いたづき 煩悩 又労 欲よ
身にいたつきのいる もろずて いほはら 廬原 人ノ姓之
いほゐ 五百井 人ノ姓之 いそすみ 五十棲 人ノ姓之

ろ 呂

乾坤 ろうもん 樓門　ろぢ 露路

服器 ろうさう 緑衫 六位ノ着衣ナリ上ハリヨク下ハサン ロウサウ拗音通ス

ろくしやう 緑青 彩色具　ろうこく 漏刻 知時器也

ろくぜう 鹿茸 鹿ノ袋角

雑事 ろくゐだち 六位立 ーー相當ヨリ内階ヘ入者ヲ云

ろうきよ 籠居 下宇屋ト同　ろういん 晦引

ろくだう 六道 地獄餓鬼畜生修羅人間天上也ト云

は 波

乾坤 はうきぼし 彗星 ほうきぼしとも　ばう 坊 訓チマタ 又コウチ

はうきのくに 伯耆國 順倭名ハハキ 手摩乳足摩乳之娘稲田姫八頭之蛇欲呑之故遁入山中于時母遅来姫曰母来故ーー初曰母来国後改ーー　はくひ 羽咋 能登ノ郡名同名所

はにふ 埴生 下總ノ郡名又上總ニモ　はづ 旛頭 三河郡名

はうぢやう 方丈 僧ノ居 島ノ名又　はがひやま 羽買山 大和名所

ははそのもり 柞杜 山城ノ名所上字又木名也古今集ニさほ山の柞の紅葉トアリ

はにふのこや 赤土小屋 万葉ニ在又埴生小屋

ぎおんのやしろ 祇園神社 山城相木郡

気形 ぎふし 祇子 神ノ於ハフリ 附祝部 ぎく ハゝトヨム 母 世ニカヽト云 拘ニメ相通

ぎやうがししゆ トモ 防鴨河使 使次官判官 主典亦之

ぎくらう 博勞 相馬者下學集ニ馬口勞ト アルハ作リ意ナリ

ぎいち ぎく共 蠅 淮南子ニ蠅爛灰中ヨリ生和訓依字 ぎいろ 鷁

ぎく 鱙 又魦 ぎふへ 肌 又膚

ぎうろ 黙 又作肬 黙フスヘ共訓ス ぎうちやう 庖丁 為ニ魏ノ文恵君ニ解ク牛ヲ事ハ見ニ于荘子養生主ノ篇ニ 丁氏ヨク庖厨ノ事ヲ知テ料理ス 者ヲ庖丁人ト云 器ヲ庖丁ト云 日本ニテ庖丁者ノ初ハ四條家ノ 庶流山蔭中納言也ト云

生植 ぎうふ 防風 ぎをんばうえ 花火榮 附ぎをんの宴

ぎぬ 蓮ノ弱根ヲ云 ぎく 菴蘆子 俗ニこくさ

這孤草 トカク ぎいつる 茁 草木ノ生ナリ

ぎじのみ 蓍 ハ通神明去穢悪 故ニ孔子不撤食玉フ

ぎきで 苔草 又地膚トモ ぎづ 巴豆

ぎせん 芭蕉 声ヲウ五 音相通

服器 ぎうがく 榜額 ぎぞ 弭 弓ノ本ノ末ノ也 又ゆみぎ弛

はらひ 祓 解除共 神道者多ハ作ル祓ニ古事アリ 附中臣ノ祓 清ノナゴシ 名越ノ アフミヨ 荒和ノ
附はをさし 筈刺
はゝき 帚 附たまはゝき 蓴
はんざう 匜 ふトモ 下學集ニ用ニ楾字ヲ 出所未詳
はらおび 纕 馬腹帯之 中略シテはるび共
はしがい 筋匙 異国人食事ニ用之
はい 灰
はんゑ 蠻繪 舞人ノ裝束ナリ
はらあかにへ 腹赤贄 年中行事ニ元日献天子ニ ハラカハ鮑魚之
はいすみ はひ尼 掃墨
はなかは 紲革 馬具也
はうはん 芳飯 又苞飯共
はらうひ 又ほ尼 拂子 順倭ニ白拂 声ホッス 禅家ノ調度ナリ

はうしぎ 柝 又ひやうしき共 拍子木
雜事
はえなし 無榮 又無光共 日本紀無見
はうど 門人 人ノ姓之
はふ 這 附ハラバフ 匐 虫ノ六蚑
はないて 放 はなちて共 又人ハハナシニモ俗ニ嘲非之 又咄 イフカシ又矢ヲハナツハ發也
はいて 帯 劔ヲハクヲ 又履ノ時 八著ノ字ナリ
はうらつ 放埒 人不順法度ニ 如生馬之放埒之 又放下とうげ 又とうかし 放下師 はうみ 放逸 又不敢埒ノ三字とふらさじト訓ス 古今集誹諧ニ身ハすてつ 心をだにもはふらさし
はじく 彈
はじめをはり 始終
はうむる 葬

はつしやう 八省 中務式ア治ア民ア兵ア刑ア大藏宮内

はうひ 評 又計 はうさう 疱瘡 疱ハ字書ニナシ見干 醫書ニ疱瘡モアリ病論起於漢張仲景ヨリ 日本ニテ鎌足大臣初テ患之

はれ 番長 人ノ姓也 はいつう 榛原 人ノ姓

はうりうじ 泥龍舟 水調樂ノ内也 ハシレウシウト不讀

はうようらく 放鷹樂 乞食調ノ内 但無舞

はうげ 放下 ハナチスツル義也 はうち 恥 俗作耻 又辱

はしる 走 奔ト讀ハ円ハワ はむむ 却含 勧等ノ

はたつく 外 矢ノ附弓ノ弦ヲはつるヽハ弛之

に 仁

乾坤

にじ 虹 又霓 にほ 湖 附にほのうみ 湖照海近例

にはたづみ 潢潦 退之詩ニ一無根源 朝ニ滿テ夕ベ已ニ除ク

にう 丹羽 尾州郡名 にひくら 新座 武州郡名

にひばり 新治 常州郡名 倭武尊東夷征罰ノ時 新治や筑波を出ていくよさや卜日ヲ連歌ノ根源トス

にひなめのおほあへ 二宮大饗 正月二日群臣賀后宮 及東宮ヲ賜フニ其食ヲ也

にふ 丹生 大和名所 又越前郡名 には 庭 又場同訓 附 こにハ廷

にんび 燎 節會神楽等ニ在即チ庭火也

気形 にようばう 女房 陽唐ノ字ハツニ五音一故衙之　にうだうみや 入道宮 源氏ニ女三ノ宮尼ニナルノ云

にたひむま 駄　にはとり 雞 又庭鳥秋ニハ かうと針も

にほ 鳰 又鸊又鷉又鬪水鳥ト云或ハにほとり 或ハやぐさ附にかぬうきす一 浮巣

生植 にはとこ 接骨木　にんじん 人參 薬ナス八胡蘿蔔トカク

服器 にかは 膠 附にへかはえ 鰾一　にこもゆ 漿 おもゆノ時ハれナリ

によいしゆ 如意珠 梵国ノ器也　にゐなめ 新嘗 年中行事 元月十上日

天子今年ノ初稲ヲ被供于神ニ也又云新嘗會以前僧尼重軽服人不可参内云々相嘗會ハ十一月上卯日ナリト云ミ

にくずうよう 肉蓯蓉 薬ミ　にえゆ 熱湯

雑事 にふ 荷 又擔　にぎはし 賑 又賑 にぎはひ共

にはか 俄 急同訓　によひ 呻吟 俗ニうなるト云也

にほふ 匂 芳共　にゐまくら 新枕 戀ノ詞

にえらし 熱土師 人姓也　にげるはふ 逐北 下字声背也人逃走則必

鬼方暗處ニ而隠身故云　にじる 躙

ほ 保

乾坤 ほうらい 蓬莱 附方丈瀛洲ヲ合テ三嶋ト云 神仙境ナリト云來ル

ほのほ 焰 燄同字附ほ いくゐ煨ヲさとも ほりえ 堀江 攝州名所

ほんぢ 品治 備後郡名附佛菩薩垂跡之以前ヲ本地ト云同カナ也

ほうミ 法美 因幡郡名

氣形 ほうわう 法皇 下字声クワウ天子授禪而祝髪シ玉フヲ云ナリ

ほうおう 鳳凰 歌ニモロコシノ鳥ト讀來ル ほうし 法師 三論宗ニハホツシトヨム

ほぞのを 臍帯 俗ニ臍緒 ほうじ 褒姒 褒国ノ女姒姓ノ故ニ名トス周ノ幽王ノ嬖妾為ス烽火之笑ヲ滅周ヲ者也

ほうねん 法然 源空也姓ハ漆間義作國稲岡之人開發浄土專念之宗住ニ黒谷ニ順徳院建暦二年正月廿五日ニ寂ス

生植 ほすゑ 木末 也万葉ニ花枝 ほうづき 山渋瓠 鬼灯トモ

ほうぼく 厚朴 ほゝかしはトモ訓ス

服器 ほかゐ 行器 俗ニ外居 ほうあて 頰當 兵具也

ぼう 棒 又作桙倭訓ぼう ほこと又つゑ ぼうし 帽子 僧侶是ヲかうすト云

ほうちやく 珤鐸 塔ノ簷隅四邊ニ垂物

ほいろ 焙爐 茶ニ用之 ほうぐ ほんごとも 反故 齊春秋云沈驎士字ハ雲云損シタル清貧也以ニ反故ヲ手ニ書數千巻ヲコレ出処ナラン

ほしいを 鱐 礼記ニ鱐ハ乾魚也 ほしいゐ ほしいひとも 糒 又乾飯

ぼくたう 木刀 又木刀ト云

雑事 ほうれい 法令 俗作令 ほゐなし 無本意

ほしいまゝ 縦逸 又放逸 ほえ 吠 又吼

ほつけう 法橋 僧位也 ほつとう 法燈 浮屠喚二碩学ニ宗ト云

ほそう 細 ほうやう 保養

ほづゐ 紵 ほんまう 本望

ほうこう 奉公 附 ほうろく 奉禄 ほつさうしう 法相宗 日本玄昉渡之但

舎亦同 ほうへん 褒貶 作褒獎非也 専詩

歌ノ分二是非一義ニ用ル 常詞ニモ附ル美 ほうき 蜂起 一揆ノオコルヲ云

へ 吉備公及空海僧ノ字ヲ有 俗ノヘヲ本字トスル非之

乾坤 べうだん 廟壇 神社也 俗作廟墻非 へんじやく 扁鵲 春秋之時良醫

気形 へう 豹 日本紀ニ豹ヲつくしト訓ス 也姓秦氏名越人家於盧国故曰盧扁与黄帝之時扁鵲相類仍號之為扁鵲学業於長桑君作難経伝在史記四十五

服器 へうそく 秉燭 標燭 共 へうらう 俵粮

へを 経緒 鷹ノへを へうたん 瓢箪 瓢ト箪トハ二ツ也

へいじ　瓶子　酒器也　俗小瓶ヲ丨丨ト云
へうぐ　裱具　表具共附　表補繪
へうし　表紙　褾紙作
へい　幣　倭訓ニギテ又神楽採物　ミテグラト訓ス又青幣白丨

雑事
へつらふ　諂　又諛
べうべう　渺々　水上眺望
べうゑん　苗裔　後裔也又丨裔
へうそ　瘭疽　指病　俗代指ト云
へうはく　漂泊　訓たゞよふ

と

空海以呂波土ノ字ハ俗止ノ字ヲ用ハ誤也四十七字ニ不限一切ノ字ハ字母字ノ声ヲ取テ讀ノ字トスル理ナシ

生植
とうぐゎ　冬瓜　とうくわ　とうが共
ときはぎ　常盤木　上二字トコトハト訓

服器
とうろう　燈籠
つうしやうじ　通入障子　烏居丨丨共
とうしん　燈心　声ニハとうしん　古書ニ多クとうしむ　近ハ徒然草
どうまろ　胴丸　鎧之
とちやう　戸帳　神前ノ丨丨　作戸ニ非也
とびやうし　調拍子　調或作土
とうちんかう　透頂香
とびのを　鳶尾　冠具之又鶏尾ハ車具之
とさう　斗筲　竹器
ともゑ　鞆繪　又巴
とうゆ　桐油　雨具
とうふ　豆腐　漢淮南劉安始作是本艸ニ

とこう 土貢 其国々ヨリ上ル ミツキヲ云

雜事 とうだう 東堂 禪家ノ　とうりやう 棟梁 其々ノ長 者ヲ云

とをし 遠 とをち共　といて 解 説ニモ

とこしなへ 鎮 又終古共 又長　ととのふる 調 又整 トモ

とらふる 捕　とをか 十日

とのゐ 宿直 又殿居附 はけ衣　とふらひ 訪 但生ニ用 死ニ弔ノ字

ととう 徒黨　とうりう 逗留

とをりがたし 通難　とぢる 閉 とげる

乾坤 とをたあふみ 遠江國　とうし 答志 志摩郡名

とをち 十市 大和郡名又とをいち共 其所ノ俗とをちと云

とをさとをの 遠里小野 摂州名所 住吉ニ近シ

とみのをがは 富緒川 大和名所　とつくに 外國

とがのを 栂尾 神社也　とりゐ 鳥居 華表トモ 順倭名 雞栖

とりのざうし 鳥曹司 大内ニ有 兵衛陣左ハ宣陽門右ハ陰明門 御門左ハ建春門右ハ宜春門也

とうじ 冬至 十一月節ノ名也

氣形 とうばん 東坡 蘇軾字子瞻仕宋官至翰林學士能書畫儒釋道一致之見

とうちうじよ 董仲舒 漢ノ孝景帝ノ博士下メ帷ヲ講誦ス三年不窺園ヲ武帝ノ時以賢良ヲ對策傳在漢書列傳二十六ニ
とほるのおとゞ とをる共 融大臣 嵯峨天皇ノ御子号六条河原院ノ
とうばうさく 東方朔 仙人也 とうじん 囚人 めしうと トモ
とうぐう 春宮 天子ノ御世継即東宮 どでう 鰍 俗ニ土釘即是ヲ以テ訓トス
とうじ 杜氏 杜康酒ヲ作リ始ム故酒造者ヲ一一一ト云 物ヲ醸スル工人ヲ杜氏ト云類ヲ推テ之
とんばう 蜻蛉 異名秋津虫 どう 胴 人躰
とほつおや 遠祖 又日本紀ニ止祖 とのゑもりと 近衛ノ門 兵衛等也
とうけん 闘犬 唐犬トカクハ非也

とふ 問 とふらふ 唱
とうねんなふ 追年 附一旨 又一ノ肖 とりあへず 不取敢
どうてん 動轉 どうだう 同道
とうりうとく 兎角 空海三教指皈ニ亀毛兎角ト云者有詞是ヨリ出
とどこほる 滞 とほる 通 又徹古書ニ亡ク今ハ有雑用
とりよこそひ 悍 鷹ノ ときはかきは 常盤堅石 神名 帳春
日祝 詞 とだえ 渡斷 断ハ俗字也
ときのこゑ 鬨 又鯢波 未考出所 俗鬨字ヲ用來ル於字書未見其説 史記項羽本紀呼声動天ヲトアリ是トキノコヱトナヲコユ

どうく

鼕〻 又百〻 鼓声く

然トモ書処ニヨリテソレトキコエカタカルヘシ又日本紀神代巻ニ雄誥トカキテオタケビト訓ス是ヲトキノコエトヨムトモイヘト別ニ不見本證ヲ又凱歌ト書ハイヨイヨ誤ヘ義不應

假名字例巻一終